

「スポーツ科学」特別講義

参加自由(受講生でなくても参加出来ます)

日時: 12月8日(土)11:00~12:30
会場: 6101教室

講師: 小峯力・流通経済大学教授、
日本ライフセービング協会理事長

いのち

テーマ: 「救急救命から生命を見つめる」

3.11の犠牲者のほぼ全員は溺れによる窒息死であった。ライフセービング界の代表として、結果的にその犠牲者の生命を前にして、何もお役に立てなかった無力を自省し、次なる東京直下、東海、東南海、南海トラフに於ける犠牲者32万人(政府発表)に対し、この事実をどう捉え、何を感じ、どう動いていくか・・・そして学生として何ができるのかを考えていきたい。

また松田直樹選手(サッカー元日本代表)のようなスポーツで亡くなるケースの事例等を通じて、スポーツ現場で求められる一次救命の理論と実践を学んでいく。



こみね・つとむ ●1963年神奈川県生まれ。87年オーストラリアにてライフセービング・イグザミナー(検定官)資格を取得。帰国後、日本初のライフセービング指導者認定を受ける。2001年から日本ライフセービング協会理事長。水難事故での一次救命(事故防止システム)の重要性、青少年のセルフレスキュー教育「自分の生命は自分で守る」を全国へ展開。日本体育大学大学院体育学研究科助手、東京大学医学部看護学校講師、流通経済大学社会学部助教授を経て、現在、同大スポーツ健康科学部にて「生命・健康・安全」の持続可能な生命教育の体系化を研究課題としている。共著に『ライフセービング 歴史と教育』(学文社)、『心肺蘇生法教本』『サーフライフセービング教本』(大修館書店)など。